

Vol.150 年末の御挨拶

～大恐慌は恐れず、侮らず、助け合って～（平成20年12月25日）

喜び、悲しみ、悩み、楽しみ、苦労した年でしたがあっという間に過ぎて行った一年でもありました。

春の小糸川さくら祭り、三舟山ウォーキング、夏の水まつり、久留里城祭り、七夕祭り、市民ふれあい祭り、花火大会、秋の産業フェア、コスモスフェスティバル、オータムフェスティバル、紅葉祭り等は昨年を大きく超える人出となりました。

館山道開通で心配された小糸鴨川線は、1日1万台を超えております。皆さまの日頃のたゆまない努力と、知恵の成果であります。

改めてこの1年も皆様の活躍に敬意と感謝を申し上げます。ありがとうございました。

サブプライムローンの破綻で始まった金融不安は、今や世界的な大恐慌となっております。元来米国は不況対策には住宅産業を主役として土地、住宅ブームを作って成果を上げて参りましたが、今回は規制緩和の行き過ぎから住宅ローンは証券化され、住宅バブル（資産インフレ）となり、市民の過剰消費をあまり、カードローンも証券化されポンジスキーム（ねずみ講的）化して、原資の数百、数千倍となって破綻したのであります。

歴史は繰り返すと申しますが、凡そ80年前も米国ではフォードが車の大量生産に成功。ラジオが発売され、チェーンストア方式が展開してパパ、ママ店を破滅させて、多くの市民が衝動買的な過剰消費が起こり、経済はバランスを失って昭和の大恐慌の原因となりました。

「時のルーズベルト大統領は、解決策が見つからず、真珠湾へと日本軍を誘い込み、戦争を起こさせ、軍需産業によって不況を乗り越える策をとり成功した。今回も世界不況を解決するリーダー国が現れないと戦争への危険な可能性も…」とエコノミスト12月号は報じております。

私が大型量販店の進出を反対してきた理由は、大型店はあらゆる品揃えを安く売るので家庭は豊かになる…しかし実態は衝動買いを誘い、不要な物を家庭内に山積みさせ、本来なら市内を循環するお金（お金は天下の回りもの）は1回転もせず持ち去られてしまう、家庭経済流出産業であります。

市内にお金の循環しないまちは、貧しいまちとなり、土地資産は下り、市民の75%が働く中小企業は壊滅して働く場も失ってしまうからであります。

大恐慌に負けない方法は、よき友仲間を持つことでもあります。情報は、インターネットよりは友人、先輩の情報を優先して侮ったり、不安感を持たないことでもあります。

年末お正月のお買物は近所、地元の商店会で会員、社員の皆さんが率先してお買いになっていただきたい。

忘年会、新年会も地元のお店を使ってやって下さい。

高い安いも大切ですが、お互いに信頼感、情感のあるきみつ市を作ることです。

来春は市長さんに「市内割引クーポン券」でも作ってもらうようご提案してみます。

来年は安全で住みよい、安心して子供や私達の余生を託せるまちづくりの「1%支援事業」をもっと活用して下さい。方法は会議所へご相談ください。

会議所は小さなもの達が知恵と力を出し合って大きな力と対等に商い、働く人たちの心の支えになることでもあります。来る年も健康で、笑顔で良き仲間たちが沢山いることを信じて頑張ってください。

賀詞交歓会にお誘い合わせ下さい。にぎやかに景気良く祝いたいとお待ちいたしております。ありがとうございました。